

『私を創ってくれた3つの作品』

スペースデザイン部会員 藤原 郁三

【作品 1】



「空への階段」 日光市立日光東小学校（1986年）

サイズ：H3500×W1200×D800mm

素材：陶

技法：陶板による積み重ね、軸は鉄パイプ

陶壁は、壁画の延長線上に存在しますが、空間芸術の1つである以上、時として、立体作品—モニュメントに繋がっていく場合があります。

最初に頼まれたのが、1986年の日光東中学校です。普通の彫刻作品は、どのような場所に置かれるかを考慮しなくても成

立しますが、モニュメントはそれがどのような場所に置かれるかが、制作上の1つの条件になります。

従って、彫刻作品のように、単体として完結する形は求めません。空間への広がりが必要ですので、「上昇」「増殖」というような、形体の連続性を重視するようになりました。

日光東中学校のモニュメントは、子供達が未来への夢を持てるよう、上に向かって延びる「上昇」する形態にして、大地から空へと階段を駆け登るイメージで創作しました。2つの階段が離れたり、接続したりしているのは、紆余曲折を繰り返しながらも、互いに助け合うことの大切さを表したかったからです。下から3分の2のところまで、左右が繋がっていますが、これは構造的な配慮も兼ねています。(H型構造)

【作品 2】



「ドキドキ」 第53回新制作展（1989年）

サイズ：H700×W350×D350mm 5体組み（作品1個のサイズ）

素材：陶

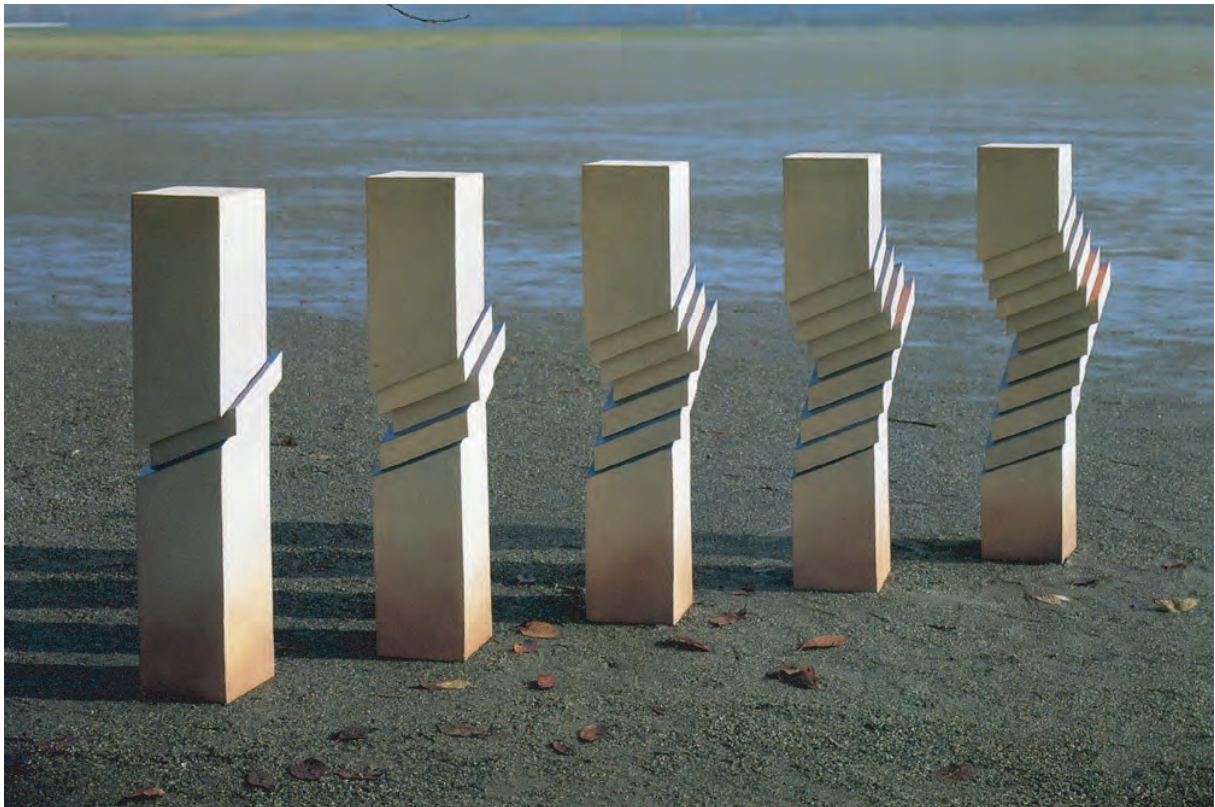
技法：陶板の貼り合わせ、陶彫

陶壁でも言えることですが、特にモニュメントは、与えられた場所の特性を考慮し、その場に関する記念し、賞賛する概念を象徴しなければならないという制約があります。それゆえ、与えられた空間に対しては、常に受身にならざるを得ません。しかも作品が完成するまでに、大勢の人達がかかわることになりますので、それだけストレスも強くかかります。受身でなく、より自由に積極的にオブジェを創り、逆にモニュメント制作の刺激にしたいと思うようになりました。（対極の仕事、陶彫邪鬼もこの頃からです。）そうして、オブジェ創りが始まったのですが、モニュメントへのオマージュとして、どうしても考えてしまいますので、やはり、空間への広がり意識せざるを得ません。移動可能で、しかも陶の技術的制約を考えると、縦方向でなく、横方向の複数体による連続性が有効です。そこから「形のグラデーション」が生まれました。

元会員の人から、新制作展には、スペースデザインという部門があり、是非にと薦められ、出品したのがこの作品です。私の場合は、これまでは団体展とは縁のない仕事でしたので、初めは躊躇しましたが、毎年、東京のど真中に自由に発表できる場を持てるのは、競い合えるという意味からも、良い刺激になると思い決心しました。

かつて日本画を描いていた時以来の団体展でしたので、はたして受け入れてもらえるのか、それこそ「ドキドキ」でしたが、幸い初出品、初入選して、ホットしたことを今でもよく覚えています。

【作品3】



「断々」 第56回新制作展（1992年）

サイズ：H900×W250×D250mm 5本組（作品1個のサイズ）

素 材：陶

技 法：陶板の貼り合わせ、陶彫

初めて新作家賞を頂いた作品です。やはり、「形のグラデーション」シリーズです。翌年、93年にも新作家賞を連続していただき、そして94年、会員に推挙されました。この間、すべてこの「形のグラデーション」シリーズでした。ですから、私にとって、このシリーズは当時の創作上の基本ポリシーになった記念すべき作品群といえましょう。



- 1946 大阪に生まれる
- 1970 東京芸術大学美術学部日本画卒業
- 1970 KK河合紀陶房に入社
- ~74 河合紀氏に師事し、陶板レリーフ制作
- 1971 日本美術院春季展初入選
- 1972 日本美術院秋季展初入選
- 1975 独立 益子陶飾にて陶板レリーフ制作
- 1983 第4回北関東美術展入選
藤原陶房を設立
- 1988 栃木の作家達展出品（栃木県立美術館）
- 1989 新制作スペースデザイン入選
- 1990/91 陶のコンテンポラリー笠間における新しい造形展
（笠間日動美術館）
- 1992 陶壁作品集（京都書院）出版
- 1992/93 新制作スペースデザイン新作家賞受賞
- 1993 あかりと空間展（梅が丘アートセンター）
日本と海外現代作家タペストリー彫刻展
（草月会館）
新制作・新鋭作家展
（東京銀座 ホリ・ギャラリー）
- 1994 交感する陶とガラス展（渋谷 ギャラリー煖）
六人囃子展（益子 佳乃や）
新制作スペースデザイン会員推挙
- 1995 千葉市美術館ファサード
レリーフコンペ佳作入賞
陶彫邪鬼展（益子 佳乃や）
以後、隔年開催
- 1996 テーブルウェアコンテスト入賞（東京ドーム）
日本現代陶彫展特別賞受賞（土岐市）
- 1997 陶彫邪鬼展（岡山 天満屋・新宿）
- 2000 ジョーモネスクジャパン展
（新潟県立歴史博物館）
坐-ZA-展（渋谷 ギャラリー煖）
- 2001 陶彫邪鬼展（鹿沼 ギャラリータスタス）
以後、三年毎開催
- 2003 邪鬼 - 藤原郁三陶彫集（叢文社）出版

- 陶のあかり展
 (宇都宮 ギャラリー・イン・ザ・ブルー)
- 陶彫邪鬼展
 (大阪 阪急百貨店・高松、米子 天満屋)
- 2004 陶彫邪鬼展 (益子 つかもとギャラリー)
 以後、三年毎開催
 日本現代陶彫展特別賞入賞 (土岐市)
 タイルデザインコンテスト優秀賞
 (ダントー株式会社)
- 2005 日仏現代陶芸交流展 (益子 kyohan six gallery)
- 2007 「発光するかたち」展
 (益子 kyohan six gallery/ 宇都宮ギャラリー悠日)
 パリ日本陶芸展
 (エスパスベルタンポワレギャラリー Paris France)
 I.E.A.C. ヨーロッパ陶芸協会 (Guebwiller France)
 大陸に於ける韓国と日本の陶芸 2007 展
- 2008 East&West 展 (益子 陶芸美術館)
 栃木に潜むチカラ展 (益子 陶芸美術館)
- 2010 East & West Clay Works 展 (Princeton U.S.A)
- 2011 「蛭硝子 器と灯り展」(鹿沼 シェイケイコ)
- 2012 蛭硝子が第4回ものづくり日本大賞 優秀賞受賞
- 2013 East&West 展 出品 (USA New Jersey)
- 2014 作陶 40 周年・つかもと創業 150 年記念陶彫邪鬼展
 (つかもとギャラリー)
- 2015 藤原郁三 環境陶芸展
 (東大阪市民美術センター)
- 2016 陶彫邪鬼展 (宇都宮 ギャラリー壺琳)
- 2017 lkuzo Fujiwara
 Environmental Ceramic Art Exhibition
 (Dublin Arts Council Ohio USA)
 「益子における焼締陶」展 (益子陶芸美術館)
- 2019 アルゴノート第36回企画展藤原郁三展
 (グラスハウスアルゴノート)
 藤原郁三の仕事 - 大地のロマンを求めて
 道の駅まして企画展示 (栃木、道の駅まして)
 「陶壁 - 栃木県陶壁事情」本 (文星芸大出版)
- 2020 鳴動と静謐～藤原郁三 野村義照 二人展
 (田中八重洲画廊)
 藤原郁三「邪鬼」展
 (鹿沼 ギャラリータラッサモ)
- 現在 新制作協会会員 栃木県新作家団体会員

■主な陶壁作品

花王石鯨栃木研究所 (栃木) 栃木県立博物館 (栃木)
 セントピア芦原 (福井) 栃木県立栃木女子高校モニュメント (栃木)
 東京大学理学系総合棟・小柴記念ホール (東京)
 栃木県庁益子焼陶板プロジェクト (栃木) 京都府立医科大学病院 (京都)
 和泉市立病院 (大阪) カツデン中庭モニュメント (島根)
 渋沢シティプレイス (東京) 益子焼陶板プロジェクト
 「笑閻魔」駅前レリーフ (益子)

他

■エコガラスアート作品

栃木県庁（栃木） 勸行寺本堂（横浜）

神戸市立中央市民病院（兵庫） 庭のホテル（東京）

栃木県立宇都宮工業高校（栃木） 春日後楽園駅前地区再開発施設（東京） 他

陶壁、エコガラスアート作品合わせて、
全国に約700ヶ所設置

ライフワークとして制作を続けている陶彫
「邪鬼」のシリーズ
上から「一念鬼」、「牛鬼」、「邪鬼石」

